令和６年８月

**気仙沼市は、子供たちの豊かなスポーツ・文化芸術活動の確保・充実に向けて**

# ５競技で休日の学校部活動を地域クラブ活動として取組を開始します！

## 国の動向

近年、少子化等により、学校部活動を継続していくことが難しくなってきていることから、令和４年１２月に国が「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、休日の学校部活動の段階的な地域連携や地域クラブ活動への移行を、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指すように示されました。

## 本市の考え

市教育委員会では子供たちの豊かな活動機会の確保のため、「気仙沼市における学校部活動の地域移行に関する検討委員会」において、部活動の在り方を検討し、学校を含めた地域人材・団体の理解と協力を得ながら、持続可能で豊かなスポーツ・文化芸術の活動環境として地域クラブ活動の仕組みを新たに構築します。

## なぜ地域移行が必要なのか？

◆　生徒数が減少しており、各校で十分な活動ができなくなる可能性が高まっています。

【中学校の生徒数推移予測】
平成19年度　2,320人
令和　6年度　1,168人（▲49.7%）
令和14年度　　871人（▲62.5%）

◆　部員数が減少し、学校単位では部活動が成り立たなくなってきています。

【部活動数の推移】
平成18年度　運動部　13競技（総部数　122）
令和　6年度　運動部　10競技（総部数　60）
　　文化部　3部　（総部数　11）

◆　**指導者を確保することが年々困難になっています。**

少子化により学級数が減少した場合、教職員の数が減り、部活の数に対して教員数が不足することが大きな問題となっています。また、競技経験や指導経験が浅い教職員（顧問）が指導に従事する場合が多くなっており、令和４年度の本市調査によると、62.2%の教職員が「経験なし・学校の授業での経験のみ」と回答しています。

## 移行することにより･･･

- **学校ごとに部活動が限定されず、子供たちの選択肢が広がります。**
- **専門的な指導が受けられやすくなります。**
- **子供たちが切磋琢磨できる環境や世代間交流機会の創出により視野を広げ、社会性を育むことが期待できます。**

【お問い合わせ】　気仙沼市教育委員会　学校教育課　熊谷・小野寺　☎２２－３４４１
生涯学習課　伊藤　☎２２－３４４２

今年度の取組

# 休日の学校部活動の一部の競技で地域クラブ活動を実施します

- 令和６年９月から、**サッカー、卓球、バドミントン、野球、バレーボール**の５競技を、地域クラブ活動として中学生が参加できる体制を構築します。競技によっては、地域を限定して実施します。※平日は、これまでどおり学校部活動となります。
- 気仙沼市教育委員会が気仙沼市体育協会に委託して実施します。
- 参加生徒の募集案内は各校を通じてお知らせいたします。（８月下旬頃）

## ＼活動に関する／ Q&A

※以下の内容については、現時点での内容となっておりますので、今後変更となる場合があります。

### 休日の部活動と地域クラブ活動の違いは？

学校部活動は学校教育の一環である一方、地域クラブ活動は学校教育外の活動となります。
活動中に事故が発生した場合、責任等が異なります。

| | 学校部活動<br>（学校が行う教育活動） | 地域クラブ活動<br>（地域が行う社会教育活動） |
|---|---|---|
| 参加者 | 当該校の生徒 | 学校部活動と同一競技で参加を希望する生徒1~３年生 |
| 指導者 | 教員、部活動指導員 | 地域の指導者 |
| 場　所 | 学校施設、公共施設 | 学校施設、公共施設 |
| 活動日等 | 各学校の部活動指導計画による | 各地域クラブ団体等の計画による |
| 保　険 | 日本スポーツ振興センター | スポーツ安全保険 |

### 連絡手段は？

保護者と地域クラブ活動の運営責任者が「つながる連絡（アプリ）」を利用し、活動日の連絡や欠席連絡を行います。

### 参加費は？

令和6年度は参加費はかかりません。

### 活動場所は？

競技によって活動場所は異なります。活動場所への移動については、保護者の皆様による送迎の御協力をお願いいたします。

### 活動回数は？

競技によって活動回数は異なります。
地域クラブ活動がない週末の部活動については、これまでどおり学校部活動となります。

### 大会参加は？

各大会要項に示された出場基準に則って参加していただきます。当面は学校単位または複数校による合同チームで出場することが想定されますが、学校に常設部がない等の要件を満たす場合は、スポーツ少年団としての出場も考えられます。